『ダイズの絵本』の読書感想文が内閣総理大臣賞受賞

命をそだて命から学ぶ「食農教育」絵本＝「そだててあそぼうシリーズ」

応募四百万編の中から受賞

第48回青少年読書感想文全国コンクール（主催　毎日新聞社）で、農文協発行の『そだててあそぼう　ダイズの絵本』の感想文を書いた小学2年の松岡清平君が、小学校低学年の部でみごと最高賞である内閣総理大臣賞を受賞した。感想文のタイトルは「ぼくもちょうせん」である。昨年で48回目になる伝統あるコンクールで、４０９万４４３８編の応募の中から、みごと受賞したものである。

また、同じ「そだててあそぼうシリーズ」の『トウモロコシの絵本』がサントリー奨励賞、さらに課題図書『カブトエビの寒い夏』の感想文が学校図書館協議会長賞とサントリー奨励賞を受賞し、農文協発行書籍の感想文が合計４作品入賞した。１作品でも入賞を出した出版社40社のなかで、９番目の入賞数である。

入選作品数で農文協が第３位

これは全国コンクールでの入賞で、都道府県代表作品（入選作品）７３０編の中から最終審査で選ばれた作品である。入選作品数を出版社別でみると、じつに農文協は36作品を数え講談社とともに第3位である。ちなみに1位は71作品のポプラ社、2位は新潮社で50作品である。

農業書や実用書中心の農文協から入賞4作品、入選36作品も出るというのは、特筆すべき現象である。この傾向は一昨年の47回コンクールから出始めており「そだてあそぼうシリーズ」の『スイカの絵本』が毎日新聞社賞、『イネの絵本』が学校図書館協議会長賞を受賞している。

食農教育が新たな知的好奇心を刺激

これまで読書感想文の対象にされてこなかった、こうした農業絵本あるいは園芸絵本が取上げられ、しかも上位に入賞してきているというのは、「総合的な学習の時間」による体験学習や調べ学習で、学校教育がツルマメを探しての新しい豆腐作りの夢のことなど内容理解の深さとともに、家族への尊敬と愛情が強く感じられる作品である。総合的な学習の時間の実施に伴い、低学年にも手に取りやすい調べる本の出版が増えてきたことが、子どもたちの知的好奇心を刺激し、2類における感想文の向上に結びついているようである。」と述べておられる。

学校教育に「総合的な学習の時間」が定着するなかで、命をそだて命から学ぶ教育＝「食農教育」が子どもたちのみずみずしい知的好奇心や感性を呼び起こし、すばらしい感想文につながっているのである。

生きものの不思議な世界から暮らしや歴史まで

農文協の「そだててあそぼうシリーズ」は、「総合的な学習の時間」で子どもたちが生きものや農業のダイナミックで不思議な世界を楽しく体験でき、さらに人間の暮らしや歴史、文化へと関心が広がるように、五つの柱から構成されている。

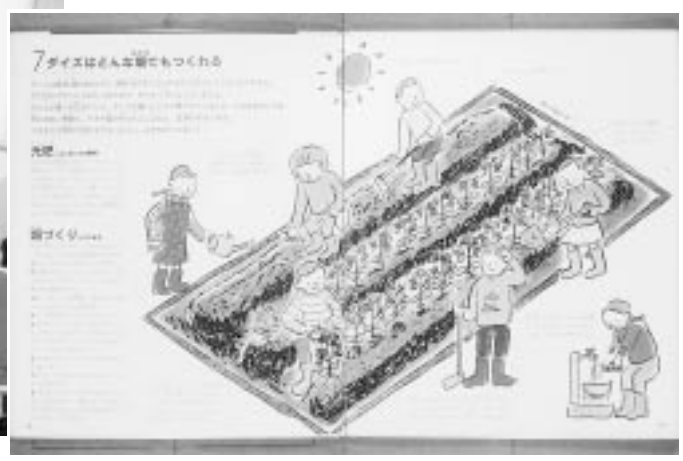
①つくり方、育て方：失敗しないつくりかたをその道の専門家が手ほどき
②観察：どんどん広がる作物や家畜の不思議な世界
③食べ方・利用：楽しい食べ方、加工法、利用法
④実験：作物の変化の不思議、おもしろ実験
⑤歴史・文化：先人の知恵が見えてくる

編集者、イラストレーターも、「総合的な学習」で制作

「そだててあそぼうシリーズ」の著者は各作物や野菜の研究をライフワークにしている、トップクラスの方々ばかりである。作物や家畜の魅力や面白さ、長年の研究のなかで発見したり、教えられたことを伝えたいと、大変な熱意でこれまでの蓄積の全てを子どもたちにぶつけることで一冊一冊が仕上がっていくという。

また、イラストも大きな魅力だが、作物や野菜の特徴をきちんととらえながら、しかも個性豊かでダイナミックなイラストに仕上げようと、実際に作物や野菜のタネをまいたり、鉢植えで育てながら描いているという。これは編集者も同じで、東京のドマンナカ赤坂にある農文協の屋上には、ミニ水田や畑ができたり、鉢植えがあふれている。編集者もイラストレーターも子どもたち同様、「総合的な学習」で作物や野菜に教えられながら「そだててあそぼうシリーズ」がつくられているのである。

内閣総理大臣賞を受けた松岡清平君。（なおこの松岡君の感想文は「食農教育」2003年５月号に掲載されています。）



「そだててあそぼう」既刊45巻、新刊10巻４月完結。ＡＢ判上製、各36頁、各1890円

教室と畑をつなぐ

「そだててあそぼう」ビデオ版、新登場！

「総合的な学習の時間」の導入によって、学校農園でさまざまな野菜を栽培する機会が増えてきました。失敗せずに野菜をそだてたい！そんな現場の想いに応えるビデオができあがりました。その名も「ビデオ版そだててあそぼう　第１集（全5巻）」です。好評の絵本、「そだててあそぼう」シリーズのビデオ化なのですが、単純に絵本が動画になったということではありません。その特徴を以下に簡単に述べることにしましょう。

【特徴その１】最初の10分ほどは「紹介編」です。栽培するにあたり、まずはその野菜の魅力を知ってもらおう、というのがここでのねらいです。なんと言っても話題の中心は「食べること」。絵本と同じキャラクターが楽しく案内します。

【特徴その２】中盤の10分から15分ほどは「栽培入門編」。作業の流れがわかるように、生育の順を追って展開します。指南役は体験農園「緑と農の体験塾」を主宰している加藤義松さん。まったくの栽培初心者でも驚くほどの成果へと導いてくれる名コーチです。

また、肥料のまき方、苗の植え方など各作業ごとに10秒ほど「おさらいコーナー」を設けて、もう一度ポイントを確認できるなど、初心者でも理解しやすいよう配慮しています。

【特徴その３】最後の5分から10分ほどは先生や指導者の方のための「栽培のコツ編」。栽培がスムーズに進行するように、失敗しないための基礎知識として、畑の下準備や栽培計画、防除のポイントを簡潔にまとめています。

以上のように、このビデオは10分前後で完結する短いストーリーの３部構成で、授業などで時間が限られているときでも上映しやすいように制作されています。全編通して視聴してもよいですし、管理作業ごとの導入、課題の投げかけなどでブロックごとに視聴することも可能です。教室と畑とをつなぐビデオとしてぜひご活用ください。

「ビデオ版・そだててあそぼう」第１集・全５巻
漓トマト滷ナス澆ジャガイモ潺トウモロコシ濟ダイズ・エダマメ　ＶＨＳ、各30分、各9975円、揃価49875円

農文協　学校園のテキスト

既刊45冊
①トマトの絵本　②ナスの絵本　③サツマイモの絵本　④ジャガイモの絵本　⑤トウモロコシの絵本　⑥イネの絵本　⑦ムギの絵本　⑧ソバの絵本　⑨ダイズの絵本　⑩ワタの絵本　⑪キュウリの絵本　⑫カボチャの絵本　⑬メロンの絵本　⑭イチゴの絵本　⑮ラッカセイの絵本　⑯ヒマワリの絵本　⑰ケナフの絵本　⑱アイの絵本　⑲カイコの絵本　⑳ニワトリの絵本　㉑ダイコンの絵本　㉒ヘチマの絵本　㉓コンニャクの絵本　㉔サトウキビの絵本　㉕ヤギの絵本　㉖キクの絵本　㉗スイカの絵本　㉘ヒツジの絵本　㉙ヒョウタンの絵本　㉚カキの絵本　㉛ブルーベリーの絵本　㉜キャベツの絵本　㉝ナタネの絵本　㉞アサガオの絵本　㉟シイタケの絵本　㊶ニンジンの絵本　㊷ミツバチの絵本　㊸ベニバナの絵本　㊹チャの絵本　㊺ブドウの絵本　㊱～㊵土の絵本　●各1890円

農と食の文化誌
江戸・東京　農業名所めぐり　JA東京中央会企画・発行　首都の食を支えた農の意外な歴史、産物。そのゆかりの地80ヶ所を訪ねるガイドブック。　●2550円
江戸・東京ゆかりの野菜と花　JA東京中央会企画・発行　世界最大の大都市江戸は、農業の育成都市。その人と風土と誕生した品種を物語で綴る。　●2550円
江戸・東京　暮らしを支えた動物たち　JA東京中央会企画・発行　江戸中期に芽生え明治から本格化した近代畜産の発信地は東京。人々の努力を社会史とともに。　●2548円

2003年新刊

第11集
㊶ニガウリ（ゴーヤー）の絵本　藤枝國光・中山美鈴編、土橋とし子・絵
㊷オクラの絵本　村上次男編、杉田比呂美・絵
㊸アワ・ヒエ・キビの絵本　古澤典夫・及川一也編、沢田としき・絵
㊹リンゴの絵本　小池洋男編、川上和生・絵
㊺ミカンの絵本　河瀬憲次編、石丸千里・絵
第10集
㊻ピーマンの絵本　高橋英生編、竹内通雅・絵
㊼ホウレンソウの絵本　香川彰編、石倉ヒロユキ・絵
㊽アスパラガスの絵本　元木悟編、山福アケミ・絵
㊾ブタの絵本　吉本正編、水上みのり・絵
㊿チューリップの絵本　今西英雄編、やまもとちかひと・絵

そだててあそぼう
〈育てる食べる調べる〉食農教育絵本
いのちを育む驚き、喜び、食べる楽しさ―農と食の体験を学びに深める総合的学習絵本。栽培・飼育、料理、加工、工芸から歴史や文化誌までイラストでわかりやすく描く。●ＡＢ判、上製、各36頁、小学校低学年から

ご注文は　農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX.03-3589-1387　振替00120-3-144478　URL http://www.ruralnet.or.jp/　（価格は税込）